

あかしびと

イスター号 (2012年4月8日発行)

日本バプテスト同盟金沢文庫教会

〒236・0046 横浜市金沢区釜利谷西 3-36-20

牧師 白根新治 TEL/FAX 045/783/5475

を昇らせ、雨を降らせる。自分を愛する者を愛しても、何の偉いことはない。

結論としてイエスは「あなた方は、天の父が完全であられるように、完全な者になりな

さい！」と私たちに教える。

イエスの教えで、これ程受け入れ難い、難しい教えはない。これが故にキリスト教から離れる者は多い。

元来、戦争や一般社会の生存競争において、冷酷に勝者と敗者に振り分けられる。敗者になってはいけない。勝者に好きなように料理され、踏んだり蹴ったりで、惨めである。

1941年12月8日、ABCD包囲陣に追いつめられ、日本は止むを得ず太平洋戦争をしかけた。

結果は？1945年の夏、敗北の屈辱で無条件降伏した。

この屈辱をスケープ・ゴートとして一身に背負ったのが、降伏調印のトップ重光葵外相である。彼は昭和7年の上海事件で朝鮮人によるテロで右足をもぎとられ、左足しかない。

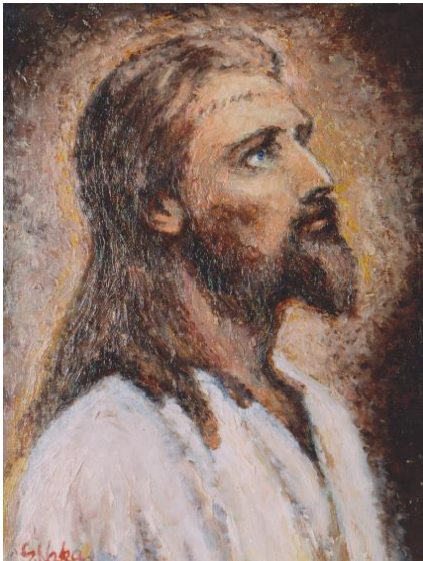
さて、敗戦になり、1945年9月2日、東京湾は横須賀沖のミズーリ戦艦の上で調印式がとり行われた。重光外相は、不自由な足で、タラップを一段一段コツコツとよじ登った。朝早く飲まず食わずで東京を出発、ミズーリの上にたどり着いた時には、疲労困憊、台湾の俗語でいうと、「鶏

愛敵精神 (マタイ 5:38~48)

会員 中山将太郎医学博士

主イエス・キリストはいわれた、「律法で『隣人を愛し、敵を憎め』とある。しかしお前たちは、敵を愛し、迫害する者のために祈れ」(マタイ 5:38~48、ルカ 6:27~36) と。

なぜなら、父なる神は、悪い者の上にも、良い者の上にも、同じく日



を呼び寄せる声は何とか出せるが、火を吹き消す力はない。」

そこで水兵に、「水を一杯下さい」といったら、「無い!」と拒まれた。一杯の水にもありつけない勝者の驕りと敗者の惨めさ、歴然とした歴史の一齣である。周りは物見の人の山、人の海、屈辱の視線が矢の如く突き刺さる。

連合国代表は、アメリカ、中華民国、イギリス、ソビエト・ロシア、オーストラリア、カナダ、フランス、オランダ、ニュージーランドの順にサインした。一切をとり仕切ったのは、飛ぶ鳥をも落とす連合国総司令官マッカーサーである。

式が終わると、示威的というか、威圧的に頭上を、日本人が空襲で怯えた 400 機の B29、その後には 1500 機の空母搭載機が飛び過ぎた。

これで曾ての大日本帝国の国勢は完全に去勢され、今に至るまで、アメリカがくしゃみをすると日本が風邪を引くようになった。

以上、誰も敗者になりたくない。また、なつてはいけない。しかし、こんな惨めな敗者、即ち敵をイエスは「愛しなさい」といわれた。

病気で入退院をくり返した遠藤周作は、「人に屈辱感を与えてはいけない」ということを、人生のモットーとした。私たちが日常生活で、しばしば反省し、人に屈辱感を与えていないか？ひげ目を感じさせてはいないか？に注意しなければいけない。これが愛敵精神のルーツであり、これがなければ人と人との健全な絆は築かれない。

東京都副知事、猪瀬直樹という作家は「東条英機処刑の日」文春文庫 2011 で、「マッカーサーはわざと皇太子明仁（今の天皇）の誕生日に、東条ら A 級戦犯 7 人を死刑に処し、溜飲を下げた」と書いた。

極東裁判で、A 級戦犯に挙げられたのは、東条英機(大将、元首相)、土肥原賢二(大将)、松井石根(大将、最年長 70 歳)、武藤 章(中将)、板垣征四郎(大将)、広田弘毅(元首相、一人だけ文官、他は皆陸軍武官)、木村兵太郎(大将)、7 人であり、もっとも可哀相なのが、広田弘毅（一人位は文官でない共同謀議による戦争発動にならないという理由だけで）。

今のサンシャイン・ホテルの在る当時の処刑場は、一枚の壁で外の世界と隔てられた。外の世界では映画館や楽屋の演奏で賑わい、まさに天国と地獄に分かれたたのである。

敗者になつてはいけない。好きなように料理される。歴史に「仮」はない。しかしあるとして、日本が仮に戦争に勝ったら、処刑されるのはトルーマンとマッカーサーである。

一切はマッカーサーが取り仕切った。彼は先ず宮城を一まわりし、天皇を見下ろせる第一生命ビルを接收し、G.H.Q. (General Headquarters 連合国総司令部) にした。後日皮肉屋の吉田 茂がここを訪れて、わざとマッカーサーに「G.H.Q. とは何？」と訊いたらマッカーサーは「連合国総司令部だよ！」と答えたら、彼はとぼけて「Go Home Quickly !」かと思つたと返した。

ここを天皇が訪れて、マッカーサー

一に会見を申しこんだ。貧相な天皇の脇に、大柄のマッカーサーが、片腕を腰にあて、突っ立った。マッカーサーは、てっきり天皇が命乞いに来たのかと思ったが、意外にも「自分はどんなに悪くてもよいから、国民を助けて下さい。」と願い出たのに、吃驚し、感動した。



さて、話をまた元に戻すが、A級戦犯は、本願寺派僧花山信勝の説法を経て、昭和 23 年 12 月 23 日、午前零時 1 分 30 秒、2 回に分け、絞首刑が執行された。敗者になると悲惨、イエスの愛敵精神はいささかも通じない。

しかし歴史を明治に戻すと、日露戦争の勝利で、乃木希典将軍は水師営で、敗将ステッセルの降伏を受け入れた時、同じような椅子に坐り、帯剣を許し、丁重にもてなし、処罰をすることはしなかった。愛敵精神である。だから二子を戦死させながら、日本に帰り、戦死した部下の遺族に平謝りに謝った。そして最後に、夫人とともに明治大帝に殉死した。

昭和になり、大東亜戦争が始まって間もなく、1942 年 2 月 27 日、ジャワ島北のスラバヤ沖で、日本艦隊が英米蘭連合艦隊に大勝した。3 月 1 日、撃沈された英水兵 460 名が荒海の中で漂流し続け、生存の限界に達した時、日本の駆逐艦が通った。艦長の海軍中佐工藤俊作と乗組員 220 名が乗っていた。本当は敵兵だ

から射殺してよいのに、工藤艦長は艦を止めた。そして、英兵生存者 460 名全員を助け上げた。乗組員 220 名の 2 倍もするする人数の敵兵をひろい上げたのである。そしてさっそく英兵に毛布と熱い茶を出し、英語で「本日貴官らは、日本帝国海軍の名誉あるゲストである」といって歓待した。このことは、本当はやってはいけない大変なことである。なぜなら、①敵潜水艦がうようよしている戦闘中、停艦することは、何時攻撃されるかも知れないので、してはいけない自殺行為である。②自艦乗組員の 2 倍もの敵人を乗せ、もし反逆されたらどうする？そうでなくても、その後の生活をどうする？③それだけではなく、士官室を英軍士官に使わせ④全員に衣服と食糧を給付した。そして後日⑤国際病院船に引き渡し、英国に帰した。

戦後復員した工藤艦長は、自らのことを語らないので、話は忘れ去られてしまった。やっと平成 16 年になり、昔救われた英兵が山形を訪れた時、工藤艦長はもうこの世の人ではなかった。英兵らは泣き泣き墓前に花を献げ、帰った。工藤艦長はクリスチャンではない。しかしイエスの「愛敵精神」を実践した見本のような方だった。愛敵精神はこの世に在った。しかし今の日本において、人と人との絆は、ずたずたに絶ち切れ、孤独死、孤立死は大都市を主に絶えない。あの名女優大原麗子でさえ、孤独死して数日かえり見られなかった。最近横浜中華街で亡くなった山

